

東京ストリート系ショップ「スタヴェーション」のオーナー松村さんは、いわゆるビート・ジネレーションに傾倒する10代を過ごしていたそう。「音楽もジャズを聴いて、小難しい小説読んでね。今のカッコからは想像できないでしょ？ でもある時、ビートだけに固執して自分がかっこ悪いなとハカらしくなって、僕らが10代の頃って、ディスコには遅くてクラブには早い、コレというムーブメントのない中途半端な世代で。その分、ビート一筋みたいなハードボイルドな人に対する憧れはあるけど、逆にもっと楽しんでエエやんって(笑)。ジャズもロックもパンクもレゲエも何でも楽しめる雑食性が身に付いた。いろいろ教えてくれる兄貴的存在の人も身近にいっぱいいたし〜」



「Stavecation」は「AG」「Mack Daddy」「Empire」「Almighty」などのドメスティックブランドのウェアを中心にセレクトしたストリートショップ。白い壁の広々とした店内には写真のボードやオブジェ、マイク・ミルズの作品などが飾られ、壁のモニターからはブラックムービーが流れる。まさにネオ・ビートなショップなのだ。秋には新たなショップもオープン予定。そちらはレディスにも力を入れていく予定だそうですので、女の子はお楽しみに

この人のセンスは注目

取材・文 井口優子 写真 武藤寛子



「ウッドストック」のプリントがクール！なシャツ。「E.P.」で働いていた友人から奪い取った。ビート卒業後もこのシャツだけは処分せず大事にしています

ジム・ジャームッシュに憧れて古着を着始めたという松村さん。「最初に「ミステリー・トレイン」を観てハマって、ビート熱が醒めた今でも、ジャームッシュの作品は全部好き」



日本人で初めてNYサウンドシステムの'99年ワールドチャンピオンを受賞した、マイティ・クラウンのMIXテープ。「僕の今のアイドル。ムチャクチャ好きでいつも聴いています」

ビートからネオ・ビートへ脈々と流れるストリートの精神



実は格闘技マニアなのだ。「フィギュアが好きなんではなく、格闘技が好きなんです。だから格闘技以外のフィギュアは興味ないですね」。当然コレクションではなく実用品



OUR UNIFORM

「フィート」「E.P.」「ティアーズ・パー」などのスタッフからなるサッカーチーム「K3S (KYOTO STRONG STYLE SHOPの略)」に所属の松村さん。これはチームのユニフォーム



ケルアックやギンズバークなど、ビートの基本にして「イブの書籍も…「今思うとムリして読んでた(笑)、今は専らマンガ。でもコレを通過してこそ今ということだ…」



ドナルド・フェイゲン、クラッシュ、ボブ・マーリー…と一見ジャンルも時代もバラバラの音楽を同じ耳で聴いてしまうヤンチャなセンスはさすが。店のBGMもそんな感じ



PROFILE
松村優さん 27才
生まれ育ちも京都なら遊びを覚えたのも京都。サッカーで東京の大学に行くも「まだ遊びたくて」退学。再び京都に。バー「DO」、古着屋「クオリティ・イン」を経て、昨年3月にセレクトショップ「Stavecation」をオープン。

ここに行けばこの人に逢える!!

三条通
Stavecation
 スタヴェーション
 京都市中京区三条通御馬場東入ル
 中之町6 松尾屋本ビル2F
 ☎075-213-4506
 ●12:00~21:00/無休